

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-139	14-069	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Epidemiology of nontraumatic osteonecrosis of the femoral head in Japan. 本邦における非外傷性大腿骨頭壊死の疫学		
執筆者		
Ikeuchi K, Hasegawa Y, Seki T, Takegami Y, Amano T, Ishiguro N.		
掲載誌		
Mod Rheumatol. 2014 Jul 18:1-4.		
キーワード		PMID
疫学、大腿骨頭、発症率、非外傷性骨壊死		25036228
要 旨		
目的： 本邦における非外傷性大腿骨頭壊死の疫学を明らかにし、年間の発症率を推定する。		
方法： 愛知県における非外傷性大腿骨頭壊死患者について、3年間にわたって個人記録、X線画像を調査した。日本非外傷性大腿骨頭壊死調査委員会の診断基準を満たさない患者は調査対象から除外した。		
結果： 3年間の調査で、本邦において非外傷性大腿骨頭壊死の登録申請を行った327例のうち、個人記録、X線画像、MR画像によって診断基準を満たしたのは285例であった。患者の平均年齢は50.4歳、男女比は2.1:1であった。また該当患者のうち、ステロイド誘発性は135例(47.4%)、アルコール関連は87例(30.5%)、両方が関連しているのは14例(4.9%)、特発性は49例(17.2%)であった。		
結論： 愛知県における非外傷性大腿骨頭壊死の年間調整発症数は138.5人と見積もられた。すなわち、日本での年間発症率は100,000人あたり1.91人と推定された。		